

No.	頁	区分	意見	対応
1	策定にあたって	館内	■数字の見せ方 「サービス指標とする「年間レファレンス件数」「県民一人あたりの年間貸出冊数」「オーテピアの年間入館者数」は令和元年度時点で令和3年度の目標値を達成、「年間個人貸出点数」は目標値に大きく迫るなど、」の部分について、具体的な数字を使って表現する。	・「個人への貸出点数が、開館から3年を待たずに300万点を突破するなど、」とする。 ・指標の達成状況は第3章でふれるので省く。
2	策定にあたって	常世田委員	■読書の楽しさ・本との出会い 協議会で先進的な取り組みが強調されすぎているのではという意見があったとのことだが、世間一般の図書館のイメージにはバイアスがかかっているのでハイブリッドの部分の強調せざるを得ない。 「読書の楽しさ」という意見もあったが、図書館が教育施設というよりリクリエーション施設という捉え方が日本にある。子どもと娯楽というイメージのバイアスがあり、先進的な取組が強調されるのはバランスをとるために当たり前。	・「ハイブリッド図書館」という言葉を用いて、「資料・情報の提供」という図書館の基本的な機能に即して書く。
3	p.1	館内	■ミッション・ステートメント 計画の構造や体系をより明確にするため、「基本理念と目指す姿」の位置付けをより高める。	・「ミッション・ステートメント」として、オーテピア高知図書館の目指す姿と果たすべき役割をより前面に出す。
4	p.1	館内	■課題の捉え方 「現在、人類は新型コロナウイルス感染症の脅威に直面し、…」のくだりを、一段上げる。県・市が抱える課題に、世界が直面しているコロナ禍も課題の一つとして加え、まとめて書く。	・左記のとおりとする。
5	p.1	加藤委員	■表現検討 下から3つめの丸の表現が気になる。「分かりやすいユニバーサルな図書館」は、分かりやすくない。	・「開かれた学びの場として、誰にとっても使いやすい図書館を目指します。」とする。
6	p.1	齋藤委員	■セーフティネット 今困っている人だけでなく、将来困らないようにする、困る人たちが出てこないようにと二重の意味ではたらくのがセーフティネット。図書館が未来に向けて、先の長い取組をやっていることを県民に意識させてほしい。	・「県民・市民が情報弱者に陥ることのないよう、」という表現を加える。 ・1章では大きく捉え、4章(基本方針)で具体的な方向性を示す。
7	p.1	加藤委員	■進化型図書館 オーテピア高知図書館だけでなく、ユーザーも進化してください、図書館を使い倒せるユーザーに。困ったという相談だけではなく、市町村立図書館も一緒に進化してきませんか。そうすればより高度なサービス、将来が見えてくるのでは。	・「ミッション・ステートメント」に「県民・市民とともに成長する図書館として、進化し続けます。」という表現を入れる。 ・「セーフティネット」との関係では、「自律的な図書館利用者を育てる」視点から、「県民・市民が情報弱者に陥ることのないよう、情報リテラシーの向上を支援し、」と書き加え、4章(基本方針)で具体的な方向性を示す。

8	p.3	館内	<p>■調整機関 第1期計画の「計画の推進体制」には、両館長と図書館専門家等で構成される「調整機関」という会議があったが、現状、点検・評価を行う「オーテピア高知図書館サービス計画推進委員会」に相当する。また、計画推進において「両輪」となる図書館協議会も推進体制上位置付けるべき。</p>	<p>・左記のとおりとする。</p>
9	p.4	篠森委員	<p>■SDGs どう選ぶかの方針が重要。取組に個別に目標の番号を示すのか。</p>	<p>・4/29打合せ段階では基準を立てて、個別に番号を示すと回答したが、館内で協議した結果、「意識する」とどめ、各サービス・取組には目標の番号を振らないこととする。</p>
10	p.7	館内	<p>■県民一人あたりの年間貸出冊数【成果・課題】 増加傾向を捉えて、「物的・人的支援の強化により、市町村における図書館活動の活性化につながっている」と書いたが、他県に比べ、県内市町村立図書館の活動は活発とは言えない。客観的な書き方とする必要がある。</p>	<p>・「県域で利用できる資料が増え、県民による図書館利用が促されたことがうかがえます。」とする。</p>
11	p.8	常世田委員	<p>■3章の内容 全体の構成として4章以降が重要と思うが、3章が重すぎる。本文は簡潔に、グラフや表は資料として巻末にした方がよい。</p>	<p>・グラフや表は巻末の参考資料へ。</p>
12	p.8	篠森委員	<p>■3章の内容 細かくグラフを見て分析できるのは図書館関係者。利用者には、ここから何がわかるかを書いた方がいい。4章にはまるように作ったほうがいい。</p>	<p>・グラフや表は巻末の参考資料へ。</p>
13	p.10 -11	館内	<p>■アンケート【成果・課題】 二期計画につなげるため、課題中心の書きぶりとなっているが、成果も入れ込むように。</p>	<p>・掲載している数字の範囲で、くみ取れる成果を追記する(2か所)。</p>
14	p.16	篠森委員	<p>■全体構成・流れ 第1期計画は並列に示せていたが、第2期計画は階層性が出ている気がする。4章を受けて5章があるという位置付け。4章の基本方針とサービス指標があって、これを達成するために5章がある。そのつながりをよく見せた方が、より理解が深まる。流れが見えたらきれい。 1章が4章につながっていると見えにくい。概念としてジャンプアップしている。間をつなぐのが2章・3章。考え方がすつとつながる道筋が見えた方が、県民・市民の理解が得られやすい。</p>	<p>・3章末に「第2期計画で取り組む課題」を置く。</p>
15		篠森委員	<p>■3章の内容 第1期計画が上手くいっているからそれでいいという感が出ている。3章の後半で達成できていないことがあるというのを見せた方がよい。</p>	
16	p.17	常世田委員	<p>■基本方針 各種団体・関係機関との連携 連携先の団体から図書館が情報をもらうだけではなく、その団体の情報発信を図書館が担うといった、双方向性が大事。「各団体の活動に対して資する」「双方向」という一言があればいいのでは。</p>	<p>・「図書館と団体・機関とが双方の強みを生かし補完することで、それぞれが担う機能の向上を図ります。」とする。</p>

17	p.18	齋藤委員	<p>■【再掲】セーフティネット</p> <p>今困っている人だけでなく、将来困らないようにする、困る人たちが出てこないようにと二重の意味ではたらくのがセーフティネット。図書館が未来に向けて、先の長い取組をやっていることを県民に意識させてほしい。</p>	<p>・「県民・市民が情報弱者に陥ることのないよう、」という表現を加える。</p> <p>・1章では大きく捉え、4章(基本方針)で具体的な方向性を示す。</p>
18	p.18	加藤委員	<p>■【再掲】進化型図書館</p> <p>オーテピア高知図書館だけでなく、ユーザーも進化してください、図書館を使い倒せるユーザーに。困ったという相談だけではなく、市町村立図書館も一緒に進化してきませんか。そうすればより高度なサービス、将来が見えてくるのでは。</p>	<p>・「ミッション・ステートメント」に「県民・市民とともに成長する図書館として、進化し続けます。」という表現を入れる。</p> <p>・「セーフティネット」との関係では、「自律的な図書館利用者を育てる」視点から、「県民・市民が情報弱者に陥ることのないよう、情報リテラシーの向上を支援し、」と書き加え、4章(基本方針)で具体的な方向性を示す。</p>
19	p.18	常世田委員	<p>■基本方針 セーフティネット</p> <p>いきなり子どもがでてくることに違和感がある。両親、家族、地域の大人へセーフティネットが最初では。現状困っている人の役に立つことを言うてから、子どもという順番が適切かと思った。</p>	<p>・順序を変更。</p> <p>・第1章(ミッション・ステートメント)、第4章(基本方針)とで統一感があるように書く。</p>
20	p.18	篠森委員	<p>■基本方針 セーフティネット</p> <p>「未来へのセーフティネット」…未来へ備えようという視点がいい。</p>	<p>・そのままの表現ではないが、「情報社会を生きるために求められる情報リテラシーの向上を支援」として、未来志向の表現を取り入れる。</p>
21	p.19	常世田委員	<p>■基本方針 「バリアフリー」という言葉</p> <p>「バリアフリー」という言葉は、一般と特殊な障害というグループを概念的に分けていて、その間にあるバリアを取り除くということ。バリアの存在を前提としており、差別的だという意見もある。</p>	<p>・「図書館利用に障害のある」とする。ただし、「バリアフリー図書」は、普段からサービスで使用しており、そのままとする。</p>
22	p.19	常世田委員	<p>■基本方針 市町村支援</p> <p>市町村図書館への支援について、4章を見たところ項目がない。あった方がいいと思う。</p>	<p>・基本方針の5項目は、基本構想と基本計画を受けた5項目。これに加えて、「県立図書館・市民図書館の独自機能の向上」の項目を起し、簡潔に書く。詳細な取組は5章で示す。</p>
23	p.20	常世田委員	<p>■指標</p> <p>具体的な効果を分析する指標がほしい。「効果を測定する指標について、継続的に研究していく」という文言を入れるとよい。</p>	<p>・左記のとおりとする。</p>
24	p.20-22	篠森委員	<p>■指標</p> <p>指標として一般的な数字を使って説明していくということだが、だとすると解説があってもよい。この取組の評価としてこの指標を使う、ということを書いた方がよい。レファレンス件数の背景を書きおいた方がよい。</p>	<p>・「設定の目的」として解説を追加する。</p>
25	p.23	篠森委員	<p>■【再掲】全体構成・流れ</p> <p>第1期計画は並列に示せていたが、第2期計画は階層性が出てくる感じがしている。4章を受けて5章があるという位置付け。4章の基本方針とサービス指標があって、これを達成するために5章がある。そこのつながりをよく見せた方が、より理解が深まる。流れが見えたらきれい。1章が4章につながると見えにくい。概念としてジャンプアップしている。間をつなぐのが2章・3章。考え方がずつつながっていく道筋が見えた方が、県民・市民の理解が得られやすい。</p>	<p>・第1期計画同様、施策体系を置く。</p>

26	p.23	館内	<p>■計画構成・施策体系「ビジネス支援サービス」の名称 第1期計画では、「ビジネス・農業・産業支援サービス」としたが、サービスで通常使っている名称の「ビジネス支援サービス」に変えたらどうか。</p>	・左記のとおりとする。
27	p.23	常世田委員	<p>■計画構成・施策体系「2 利用者に対応したサービス」 サービスが児童、障害者、外国人などのくくりになるのは当然だが、主要な対象となる一般成人への言葉が抜けている。ここで挙げているのは、一般的な大人と違う特性を持っている利用者。その点を上手く表現できないか。</p>	・「利用者に応じた対象別の図書館サービス」とする。
28	p.24	館内	<p>■司書の専門性の向上 AIでは代替不可能な人的な支援の能力として、「カウンセリング能力」や「ホスピタリティ」を司書の専門性に加えてはどうか。</p>	・左記のとおりとする。
29	p.24	常世田委員	<p>■広報(基本方針でのご発言) 「PR・広報に力をいれるという」表現があったが、別に項目を立てて独立させてもいいのでは。海外図書館を調査したが、SNSの更新サイクルが短い。図書館の広報が不足していることは昔から言われているので、頻繁に更新を行うということを入れてはどうか。</p>	・「サービス提供体制の充実・強化」で書き込む。
30	p.24	館内	<p>■民間等との連携 自治体財政がますます苦しくなる。民間の人材や資金の活用についても言及し、活用の努力をするべき。</p>	・左記について盛り込む。ただし、その目的は、「新たなサービスの創出」に限って書く。
31	p.26 -52	館内	<p>■「基礎的なサービス」・「独自のサービス・取組」という区分 計画全体を構造的に捉える中で、「各サービス・取組」内の個々の取組も「基礎的なサービス」・「独自のサービス・取組」と分けようとしたが、逆に分かりにくくなってしまいう側面がある。このような区分は、進捗管理等に生かせばよく、計画に掲載する必要はない。</p>	・「基礎的なサービス」・「独自のサービス・取組」という区分は用いない。どの取組が横断的なものかを意識して掲載し、該当する取組は一括して進捗管理することで、負担の軽減を図る。
32	p.26	齋藤委員	<p>■市町村立図書館等を通じた資料の貸出し もう少し具体的な館名を挙げたほうがよい。</p>	・「市町村立図書館や大学図書館、図書館未設置町村の図書室等を通して貸し出します。」とする。
33	p.30	齋藤委員	<p>■文言追加(ビジネス支援) 「6～7万冊」の後ろに、「の書籍、専門誌。データベース等の」を挿入する。</p>	・「6～7万冊の書籍、専門誌、データベース等のビジネス関連する資料・情報」とする。
34	p.46	齋藤委員	<p>■市町村立図書館への支援(指標でのご発言) 前向きに頑張ろうとしている図書館を、一生懸命後押ししますということ。整備後もっとよくする努力を一緒にやりましょうというところが、出てきてほしい。</p>	・詳細は5章の各サービス・取組で。「モデルとなる図書館」といった図書館振興計画の表現を生かす。
35	p.51	常世田委員	<p>■大学等との連携 大学・専門機関等との連携を入れておいた方がいい。</p>	・「大学等の教育・研究機関等との連携」の項目を新たに立てる。

36	p.51	齋藤委員	<p>■大学等との連携</p> <p>大学との連携について、どの程度のサービスができていますのか。例えば鳥取県立図書館は、本や雑誌を2日後に必ず届ける、費用も図書館負担。そういうことをやっているもしくは将来的にやるつもりなら、5章に「大学」あるいは「高等教育機関」という言葉を追加しては。</p>	<p>・「大学等の教育・研究機関等との連携」の項目を新たに立てる。</p> <p>・ただし、物流体制に限定せず、連携事業等も含めて書く。</p>
37	p.85	齋藤委員	<p>■アンケート</p> <p>市町村立図書館等への調査について、回答が返ってきていないところがある。そのことに関心を持っていないという受け止め方をされがち。再度回答してもいい、100パーセントにできないか。</p>	<p>・支援協力担当から督促した結果、回答あり。回答率100パーセントに。</p>
38	p.92	加藤委員	<p>■用語解説</p> <p>取組ごとに用語解説を行うのではなく、用語解説ページを設けるのも一案。</p>	<p>・巻末の参考資料に「用語説明」を設ける。</p>
<p>計画の説明等において取り入れさせていただきご意見</p>			<p>■指標関係</p> <p>市町村立図書館の整備状況について、地元の人たちが数字で分かるように検証してとっておいてほしい。</p>	<p>・計画の説明資料等、今後の数値の見せ方に反映する。</p>
			<p>■指標関係</p> <p>協力貸出点数、講演、共同展示など、オーテピアの開館前と比べたい。かつてに比べてこんなに増えたという形にできるといい。本だけでなく、それ以外の情報提供もやっていくことを数字で示せるとよい。</p>	<p>・計画の説明資料等、今後の数値の見せ方に反映する。</p>
			<p>■指標関係</p> <p>比較要素を入れる。単独の指標だけでなく、同規模自治体や海外、先進国の図書館との比較を載せることが必要では。</p>	<p>・計画そのものではなく、・計画の説明資料等、今後の数値の見せ方に反映する。</p>
			<p>■指標関係(個人貸出点数)</p> <p>どこの図書館もコロナの影響で落ちた数字をそのまま使っている。</p> <p>1年間の貸出点数の中で、4、5月の休館時期のパーセンテージを出し、修正値を計上したらどうか。ほとんど変わらないか、達成できた数値が出るはず。</p>	<p>・計画そのものではなく、・計画の説明資料等、今後の数値の見せ方に反映する。</p>
			<p>■広報支援</p> <p>マスコミへの資料提供や市町村立図書館へのポスター・チラシの配布、県広報紙への掲載など、図書館と一緒にやったらマスコミに載せてもらえる。手を出しにくい広報についても、我々と一緒にやっていくといった方向で。書くのは難しいかもしれないが、意識して取り組んでほしい。</p>	<p>・計画には明記しないが、取組に取り入れていく。</p>